代々木図書館新聞

よよぎとしょかんしんぶん

渋谷区立代々木図書館　03-3370-7566

〒151-0053 渋谷区代々木 3-51-8 代々木区民施設 4F

Vol.27

2014年3月15日

代々木図書館 2014年3・4・5月の予定

3月

- 3月20日（木）15時～15時30分 おはなし会
- 3月22日（土）9時～ 雑誌リサイクル 体験! 1日図書館員
- 3月27日（木）15時～15時30分 おはなし会

4月

- 4月3日（木）15時～15時30分 おはなし会
- 4月17日（木）15時～15時30分 おはなし会
- 4月19日（土）15時～15時30分 おはなしとこうさく会
- 4月24日（木）15時～15時30分 おはなし会
- 4月26日（土）9時～ 雑誌リサイクル

5月

- 5月1日（木）15時～15時30分 おはなし会
- 5月15日（木）15時～15時30分 おはなし会
- 5月17日（木）15時～15時30分 おはなしとこうさく会
- 5月22日（木）15時～15時30分 おはなし会
- 5月24日（土）9時～ 雑誌リサイクル
- 5月29日（木）15時～15時30分 おはなし会

夭折の日本画家
菱田春草

菱田春草は、日本画の近代化に尽力した岡倉天心に師事し、横山大観、下村観山、木村武山とともに明治時代に活躍した日本画家です。

眼病を患って光を失い、36歳という若さで亡くなった春草。彼が晩年の2年余を過ごし、「落葉」や「黒き猫」といった代表作を描いたのが代々木の地です。

●空気を描きたい

「空気を描く工夫はないか」没線描法（朦朧体）という表現方法の試みは、天心のそんな言葉が契機となりました。試行錯誤の結果生まれたのが、輪郭線を用いず、色線を空刷毛でぼかし重ねるという技法です。

しかし、従来の日本画の常識に反する斬新な表現は、画壇から酷評を受けました。〝朦朧体〟という言葉も当時は批判や揶揄を含んだ呼称で、その悪評は「落葉」が文展で賞を受賞する明治42年まで、約10年間続くのです。

代表作　「黒き猫」

●生涯の友、横山大観

東京美術学校の先輩、後輩として出会った大観と春草。大観自身が、春草を氷、自身を火と例えたように性格は真逆で、年齢も大観の方が六歳年上でしたが、彼らは目的や理想を同じくしていました。

天心の主宰する日本美術院の創立に揃って参加し、諸外国への外遊や、連名での論文の発表、朦朧体の確立など、様々な場面で行動を共にしています。

「春草にして今まで在世してあらんには、僕の絵もモット進んだであったろう」春草の死を、大観は後々まで嘆いていたといいます。

左から：『もっと知りたい菱田春草』鶴見香織著　東京美術／『近代日本画、産声のとき』児島孝著　思文閣出版／『現代日本美術全集3』後藤茂樹編　集英社

代々木図書館近くにある木碑

2014年3月・4月・5月の休館日（5月9日～11日は特別整理期間です）

3月 16（日）・18（火）・25（火）　4月 1（火）・8（火）・10（木）・15（火）・20（日）・22（火）・29（火）

5月 6（火）・8（木）・9（金）・10（土）・11（日）・13（火）・18（日）・20（火）・27（火）

この新聞は代々木図書館で働いているスタッフが作っています。

代々木図書館新聞
よよぎとしょかんしんぶん
2014.3.15 Vol.27

出演者の皆さん

大人のための おはなし会

1月13日（月）、「初笑い！大人のためのおはなし会」を開催しました。代々木図書館では初の試みでしたが、大勢のお客さまにおいでいただきました。この日は成人の日でもあり、いつもは子どものためのコーナーが、大人の皆さんの笑い声に満ちて大いに賑わいました。

出し物は落語と漫才です。富ヶ谷図書館でも前日に同じ催しを行いましたが、2日とも参加のお客さまもいらっしゃいました。

寄席に行くこともあるが、ここは間近で聞けて良かった。また、催しがある時には知らせて、というありがたい感想もいただいています。

保育園ご招待会

2月5日（水）に代々木保育園のお友達をご招待して、特別なおはなし会をひらきました。

大きな紙芝居『ごきげんのわるいコックさん』や、みんなの好きな絵本『はらぺこあおむし』を読みました。絵本のあとはあおむしが食べたものをあてるクイズ。みんな元気に答えてくれました。

最後はパネルシアターの『せつぶん』です。パネルシアターは、パネルの上に登場人物や背景などの絵を貼ったり、動かしたりするもの。せつぶんの日にどうして豆まきをするようになったか、というお話に合わせて、鬼や百姓夫婦が動くのを熱心に見入る姿がみられました。

真剣に見入る園児たち

渋谷の文学⑤ 加藤シゲアキ

―単なるアイドルではありません―

出会いは9歳の時、真吾が住む横浜のマンションに大貴が引っ越ししてきたことから始まります。ふたりは渋谷にある同じ大学付属の私立中学に入学したため、中学、高校の6年間を渋谷で過ごします。渋谷クロスタワー2階にある尾崎豊のレリーフ前やバンドのたまり場だった美竹公園など、様々な経験を共有するうちにお互いが大事な存在になっていきます。しかし、東横線の渋谷駅前で雑誌モデルとしてスカウトされてから、ふたりの人生は大きく動き、すれ違っていくのです。

著者の加藤シゲアキは、ジャニーズ事務所のアイドルグループNEWSのメンバーです。一人称で書かれているため感情移入しやすく、時おり彼の顔が主人公と重なることもあります。

第二作『閃光スクランブル』に次いで、第三作『Burn.―バーン―』が出版されます。三作目は、宮下公園が舞台。

『ピンクとグレー』
加藤シゲアキ著　角川書店

最近これ読みました⑦

『遺体』石井光太著　新潮社

2011年3月11日に発生した東日本大震災の甚大な被害。その状況を、岩手県釜石市の遺体安置所での様子を中心に記したルポルタージュ。様々な立場の人々の目を通すことによって、より克明に記しています。

過酷な状況の中、すべての人々に共通してみられるのは、被災し亡くなってしまった方々を、きちんと家族の下に帰してあげたいという熱い思い。そして、生き残ることができた家族が、悲しみを乗り越え少しでも前を向いて再出発できるようにと願う、悲痛な心の叫びです。

映像だけでははかり知ることができない、被災者の方々の苦悩と強さ。生と死の尊厳がここにあります。

1日図書館員募集

図書館の仕事を体験してみませんか?
小学校4～6年生が対象です。
カウンターまたは電話で申し込んで下さい。

実施日：3月22日（土）
応募受付期間：3月15日（土）～20日（木）
定員：4人（抽選）
問い合わせ：代々木図書館
Tel.3370-7566

編集後記

震災の折、釜石市では小中学生の99.8%が津波から逃れ、奇跡と呼ばれました。ここには「津波てんでんこ」という教訓があるのです。それでも、多くの方が亡くなりました。このことを千年先に伝えようと、2月に新たな行事が行われました。高台へ駆け上がる「韋駄天競争」です。この災害が、私たち皆の教訓として記憶されますように。

ご紹介した本は、すべて渋谷区立図書館で借りられます。